



私事ですが、新型コロナウイルスの影響で、お盆参りを自粛することになりました。今年は自宅から、親戚やお世話になった方のご先祖様が、ウイルスに驚く事無く戻られることを祈りたいと思います。

お線香

良啓

時々、ご年配の方で他家の線香を使う際に、小銭を支払う場面を目にします。昔の美しい名残ですね。私はその様な事が無い様、ご家庭へのお参りの際、線香を持参しています。本来、線香は高級品でした。原料の香料は天然素材の為、産地や数量に限界があります。しかし、今では大量生産可能な化学素材があり、値段が安くなりました。

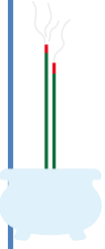
さて、この香料の一つに香木があります。一般的ものは白檀です。インドや東南アジア諸国の常緑樹で、洋名をサンダルウッドと言います。爽やかで落ち着く香りが多いですね。インド産が高級と言われています。

次に沈香です。こちらは、元々香りの無い木が朽ちて土中に埋まり、微生物や樹液が永年化学変化を起こすことで芳香すると言うものです。面白いのは、永年変化した木が水に沈むため、沈水香木↓沈香と名付けられました。はつきりとした香りが特徴です。

最後に、伽羅(きゃら)を紹介します。沈香の最高級品と呼ばれ、香気や油質の違いにより分別されます。刺激的でエネルギーを頂くことが出来る香りと表現したら良いでしょうか。

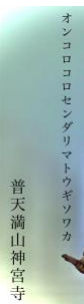
また、不思議な事に、値段が高い良い線香ではありません。例えば、仕事前に沈香を焚いて、頭を覚醒させます。そして、就寝前に白檀を焚き、入眠効果を高めます。この様に、使い方によって価値が変わります。

コロナ禍で、慣れない在宅ワークや減らない感染者数に不安を感じている今、線香を焚き、リラックスをしては如何でしょうか？神宮寺では、お寺ならではの目線で厳選した線香を授与しております。



お薬師様

薬師如来



寺務員 三原



高知で過ごした子供時代、転んで膝を擦り剝くたびに祖父が、「オンコロコロセンダリマトウギソワカ、痛い痛い飛びんでいけ〜！」と唱えてくれました。その不思議な呪文が、けがや病気を治してくれるお薬師様の真言だと教わり、得意になって学校で友達に教えると「知ってるよ〜。」と何人かに笑われ、しょんぼりした思い出があります。

四国ならではの思い出かもしれませんが、一般家庭にもお薬師様の真言が広く伝わっていたということでしょうね。

私自身、願う事は色々ありますが、病気になる時の「どうか早く治してください〜！」という願いは特に切実です。昔から今に至るまで、いったいどれだけの数の人が、どれだけの願いを込めてオンコロコロと唱えた事でしょう。

昨年家族旅行で、神宮寺の本山である京都の東寺に行き、金堂でご本尊のお薬師様にお参りしてきました。長い時間、熱心に手を合わせる人の姿も多く、古くから続く信仰の姿を垣間見た思い出でした。

沖縄に帰ってから良啓さんに、「どうして東寺の御本尊はお薬師さんなのですか？」と問うたところ、「平安京が出来た当時は疫病が蔓延しており、人々の心身を救うためにお薬師様がお祀りされたのですよ。」との答えを頂きました。

神宮寺にも実は小さな木彫りのお薬師様がいらっしやいます。お参りの際には是非、本堂左手にいらっしやるお薬師様に「オンコロコロセンダリマトウギソワカ」と唱えてみては如何でしょうか？

身体だけではなく、不安で疲れた心も、きっと癒してください。

